

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム わたぼうし		
所在地	下関市横野町三丁目16-35		
電話番号	0832-58-3123	事業所番号	3570100721
法人名	医療法人社団 松涛会		

訪問調査日	平成 21 年 1 月 17 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 26 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	20 人	常勤 7 人 非常勤 13 人 (常勤換算 13.5 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	5 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 59,100 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	1日 1,500円			
その他の費用	月額	4,500 円		
	内訳	雑費、衛生費、教養娯楽費、冷暖房費等		

(4) 利用者の概要 (12月20日現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名	
	要介護 1	4	要介護 4	6
	要介護 2	4	要介護 5	0
	要介護 3	4	要支援 2	0
年齢	平均 87.4 歳	最低 80 歳	最高 97 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 安岡病院
	歯科 つぐ歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

ゆったりとした共用空間は、広い長い廊下でユニット間の行き来は自由で、椅子やソファでそれぞれにくつろぎ、落ち着いて過ごせる場所となっています。また医療連携体制が整っており、身体的変化に速やかに対応でき、利用者と家族の安心安全に繋がっています。

(特徴的な取組等)

日々リーダーを交代制としており、職員は主体的に行動でき、また協調性も育ち、職員間のコミュニケーションがよく取れています。利用者により添う介護を重視し、「もし自分が認知症だったらどんな生活がしたいか」を職員が話し合い、個別ケアに熱心に取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果は、職員会議や運営推進会議で報告し、意見や情報を取り入れて改善を図っています。理念の見直し、地域の行事への参加、玄関の開放、救急救命やAEDの講習の受講など出来るところから取り組みを始めています。

(今回の自己評価の取組状況)

主任が自己評価の意義を説明し、全員で検討して記入しています。その過程で初心に戻り、ケアを振り返るけじめになって、利用者の気持ちを理解する取り組みを始めています。

(運営推進会議の取組状況)

定期的開催し、メンバーは地域住民代表、地域包括支援センター職員、利用者、家族でホームの状況や外部評価結果を報告し、情報交換で地域との交流、拘束や看取りについての話など運営に活かせる取り組みを行っています。

(家族との連携状況)

ホーム便り「わたぼうし便り」で生活ぶりや行事、職員の異動の知らせ、金銭管理の報告をしたり、面会時(洗濯物やおむつの持参などで週1回)や電話で十分に連携を取っています。

(地域との連携状況)

自治会には法人で加入しており、自治会長や民生委員を通して芋掘りをしたり、文化祭に招待しています。また、ボランティア、大学生、小学生との交流があります。日々の生活の中で自治会活動に参加して住民と交流することは少なく、今後地域に馴染みたいと前向きに考えています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の中でいきいきと、その人らしく、ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに」と職員で話し合っ事業所独自の理念を作り上げている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事業所内に掲示し、ミーティングで確認している。「職員自身が認知症であったら、どんな生活がしたいか」を話し合い、理念に添ったより良い介護をするため努力している。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	法人で自治会に加入し、自治会長や民生委員を通じて芋掘りや文化祭への招待、ボランティアや大学・小学生との交流がある。地元の人とは、散歩途中での挨拶や野菜を時に貰うこともあるが、日常的な交流はない。	・地域の一員としての日常的な交流の工夫
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	主任が評価の意義を説明し、全職員で項目ごとに検討してまとめた。1年の振り返りのはじめになり、利用者の立場を理解し初心に帰ることが出来た。外部評価は職員会議で報告し、運営推進会議でも報告し、出来るところから改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的開催し、メンバーは民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者で外部評価結果やホームの活動状況の報告をし、意見交換をしている。地域との交流は課題として、地域行事や法人行事への招待など、出来るところから取り組んでいる。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市との課題解決の連携は法人で行っているが、手続き等不明なことは電話で直接連携を取っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヵ月ごとにホーム便りで、暮らしぶりや行事の様子を知らせている。面会時に健康状態や生活の様子を話したり、金銭管理の報告もして、必要時には電話で報告や相談をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議や家族の集まる文化祭、クリスマス会で意見や苦情を聞くようにしている。苦情相談窓口、担当職員、外部機関は明示しているが第三者委員及び処理手続きは定められていない。	・第三者委員の選任 ・苦情処理手続きの明確化
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員は2ユニット20人で、ユニット間は日常的に交流があり、突発的な状況にも職員間で勤務調整をして柔軟な対応が出来ている。代替は休暇の職員で対応し、夜間の場合はユニットの応援を頼んでいる。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の相談を定期的に行い、離職や異動は最小限に抑えている。変わる場合は、重複勤務を日勤1ヶ月夜勤を1回行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤、非常勤の区別なく、法人内の研修は定期的に受講しており、復命伝達も行っている。日々のリーダーを交代制とし、主体性と職員間の協調性が育成されている。資格取得は介護福祉士2名が挑戦しているが、外部研修の受講は少ない。	・外部研修の受講の検討 ・研修計画の検討
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	20年度は協議会を脱会し、同業者との訪問や交流はしていない。21年度は、ブロックの協議会等で訪問や勉強会に参加予定である。	・継続的な同業者とのネットワーク作りや勉強会への参加の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>申し込み時に家族に説明し、日中ホームで過ごしたり、体験入居をして、雰囲気に馴染めるよう工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>経験豊かな利用者から、野菜の作り方を教わったり、日常生活の知恵など学ぶことが多く、共に協働する中で支え合う関係が築かれている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員は利用者に寄り添うケアに心がけ、何気ない言葉や態度から、一人ひとりの希望や思いを受け止めて、「ふれあい記録」に記入し、カンファレンスで共有している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族や利用者の希望や意見を聞き、月一回のカンファレンスで話し合い、それぞれのアイデアを活かした介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>定期的見直しは3ヶ月としており、変化が生じたときはその都度見直ししている。月一回のカンファレンス(4時~5時)は全員参加で行い、本人、家族の意見を踏まえて検討している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制が整っており、往診、受診、週3回の看護師によるバイタルチェック、訪問理美容など柔軟に支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に家族と話し合い、かかりつけ医や受診方法、情報のやり取りなどを取り決め、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	早い時期から家族、医師、職員で話し合い方針を共有しており、同意書もとっている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	丁寧な言葉遣いで礼儀正しく接することに心がけ、全体会議やミーティングで常に話題にしている。記録類など個人情報は、直接目に触れないようプライバシーの確保に努めている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	くつろいでいる時に職員が寄り添い、希望や思いを聞くことに心がけ、スケジュールの調整をしながら、一人ひとりのペースを大切に支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は配食であるが、月、水、金の昼食は利用者の好みを取り入れ、一緒に調理、配膳、後片付けをしたりおやつ作りをして食事を楽しんでいる。腎臓病などの利用者には、管理栄養士の指導で特別食を提供している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	隔日の入浴で、希望に添い一人ひとりゆっくりくつろげるよう支援している。必要時清拭や部分浴、シャワー浴も行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や力を活かして、後片付けや食器拭き、洗濯物たたみ、犬や猫の世話などの場面作り、折り紙や花を活けて楽しんでめるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物、四季毎の花見など支援をしているが、建物の周囲の安全が保てないため、外出の機会が多いとは言えない。	・散歩等外出の機会の検討
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	ミーティングや会議で、拘束についての意識付けをしており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施錠の弊害を理解しており、利用者の外出傾向を注意しながら日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。2箇所の玄関のうち1箇所は目が届かないため施錠している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し、ヒヤリはっと、事故報告書を整備し、全員で検討して事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルは整備しているが、応急手当や初期対応の訓練は十分ではない。救急救命やAEDの講習を2名受講している。	・定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回法人内合同で行う避難訓練に利用者と共に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報はファイルし、職員は理解している。夜勤で2回、服薬時再度確認して手渡ししている。症状に注意し変化があれば家族や医師に報告している。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、声かけや見守りで力量に応じた支援をしている。歯ブラシや義歯は消毒を行っている。保管方法については検討中である。	・歯ブラシや義歯の保管の検討
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量はチェックし、必要量の確保をする為の工夫をしている。一人ひとりの状態に沿った刻み食やトロミ食、味付けを提供している。毎月1回栄養士によるカロリーや栄養バランス、糖尿病食などの指導がある。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	法人内の月一回の感染症対策委員会に出席し、職員に情報を伝えている。マニュアルに従い手洗いやうがいトイレ、手摺りの消毒など予防に努めている。インフルエンザの予防接種は全員実施している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	居間や廊下は広々とした空間で、随所に椅子やソファが置かれ、床暖房で足元から暖かく、本を読んだり、うとうとしたり心地よさそうな雰囲気であった。ユニット間を自由に行き来することが出来ゆったりとしたくつろぎを与えている。室温、湿度のチェックをし、換気や加湿に配慮しており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や小物を持ち込み、本人が過ごしやすい工夫をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グール-70ホーム わたぼうし
所在地	山口県下関市横野町 16番 35号
電話番号	083-258-3123
開設年月日	平成11年 2月 1日

【サービスの特徴】

家庭的な雰囲気の中 元気で楽しく暮らせよう
支援援助しています。

併設病院との医療連携により 日常的にしっかりと
健康管理を行い安心して暮らしを提供しています。

また 定期的な管理栄養士による栄養指導や感染
予防チームスタッフによる最新情報提供など より専門性の
高い生活管理をしています。

その中で職員は常に誠心誠意 心を込めた寄り添う
ケアにより入居者一人ひとりがその力を発揮し
生きがいを持って暮らせよう 工夫をしています。

【実施ユニットの概要】 (12月20日現在)

ユニットの名称	グール-70ホーム わたぼうし ①		
ユニットの定員	9名		
ユニットの 利用者数	9名	男性 0名	女性 9名
	要介護1 2	要介護4 4	
	要介護2 2	要介護5 0	
	要介護3 1	要支援2 0	
年齢構成	平均 87.2歳	最低 80歳	最高 97歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	全員で話し合い意見を出し合ってまとめました。
評価確定日	平成20年 12月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
	地域で生き生きと笑い暮らすことを目標にしている。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
	日常的に確認し共有し合って実現に向けて努力している		
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
	ホーム内に掲示し毎日目にすることにより軌道修正し見直している。		
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
	常により良いサービスを目指して問いかけをし互いに考え意見交換し合っている		
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	わたぼうしの生活ぶりを知らせ理解を深めてもらう。ホーム便り等を利用していくとよいのか？
	家族への呼びかけはできているか 今後地域になじむ働きかけが必要かと思う。		
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	○	顔みせりになりなじみの関係となれる場づくりの設定をしていく
	自治会長さんや民生委員さんを通じて交流の場が生まれつつある。		
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	○	法人施設内での交流にとどまっている。今後もっと地域へ出向く。
	地域のまつりに出向いたり(おみこし)法人の行事に招いたりしている。		
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つことについて考える場を持てたい
	地域交流ホームを開放し自由に使用してもらっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<p>○<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の高齢化により、運営者の思いと、現場職員との距離感を感じている。 外部評価により、理解いただき、共感してもらっている。</p>	<p>○ 職員全員で自己評価して、会議で問題点について話し合っている。</p>
10 (5)	<p>○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2か月に一回会議を開き、現在の状況と、地域の今をさくことができている。 地域の方々と、合同で行事を行なっている。</p>	<p>○ 芋ほり(地域の畑に行き、子供たち)文化祭(売店と合唱にて、ふれあう)研修生や小学生とのふれあい。</p>
11 (6)	<p>○<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の監査があり、見直し点やサービスに関しての情報をいただいた。</p>	
12	<p>○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度は、個々に学習している。 全員での学習は、できていない。</p>	<p>○ 専門的にくわい方を勉強会に招き、学習していきたい。 (毎月、勉強会を実施している)</p>
13	<p>○<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>行動障害への対応に苦慮することもあつた。 その都度、みんなと話し合つて、気持ちに余裕を持てるよう努力した。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
14	<p>○<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>書類上の契約は、出来ている。 説明不足や受け取り方の相違がある時があった。</p>	<p>○ グループホーム内の決り事や今後の高齢化による、身体的にどこまで暮らすことができるかなど。</p>
15	<p>○<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者からの意見は、真摯に受け止め色々な角度より検討し、家族と相談の上、解決しています。</p>	<p>○ 会議にて、全員で話し合いたい。が、即答しないといけば、場合も多く、報告の形になることも多いのが、</p>
16 (7)	<p>○<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>伝えたい事は、面会時に伝えている。急な事は、電話にて連絡。金銭管理の報告も、日常の事は、おたほうし便りにて知らせている。</p>	<p>○ 面会時に、お互いの報告がしやすいように、家族の方々とコミュニケーションをとりたい。</p>

実際

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○<u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>○<u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○<u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p>○<u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p>○<u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>○<u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	法人外の研修にどんどん参加していきたい。
23	<p>○<u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p>○<u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	相互の訪問や法人内他のグループホーム(70行)との勉強会計画

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常的に職員ひとりひとりの気持ちを聴く機会もつなごして話しやすい雰囲気作りに努めている。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	日頃から職員と話し、勉強会を行ったりしている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	基準に添って定期的に評価している 運営者と現場は常に情報を共有している。		基準、手順委員会に所属し 実践の勉強会も実施している
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	時間をかけてよく話し、傾聴している		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	何事でも話し、一緒に問題を解決したりして和やかなムードの中で傾聴している		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	体験入居を勧めている		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	日中遊びに来てもらったり、1泊～数日の体験をもらって、入居後の生活にスムーズに入れるよう工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ふれあいを大切にし信頼関係を築いている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		家族会を開催し、密な関係づくりを目的にしていきたい。
34	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		レベル低、方にかたよった支援に取り組むように心がけている
37	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

38 (15)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		リーダーがその日担当する方を決め個別ケアの徹底に努めている
39	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		3人1組と一緒に見てよから話をすると、いろいろ思い出話が出る
40	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<p>○<u>チームで作る利用者本位の介護計画</u> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>日々の様子を職員間で話し合いケアについて話し合っている。生活に変化が生じた時には家族に報告し、考えを伺っている。</p>	<p>○ セラー形式とついでにアセスメントを共同で行った。計画作成担当者、家族、担当者から幅広い情報をとり入れ、意見やアイデアをケア計画に</p>
42 (17)	<p>○<u>現状に即した介護計画の見直し</u> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>本人・家族の意向を踏まえたケアプランの見直しと柔軟に対応している。</p>	<p>○ 医療的に対応が必要な方は担当者会議を開き、Dr. NPはどちらの意見を伝え、その上でご家族の意向や希望を伺い、ケア計画に生かしていくようにする。</p>
43	<p>○<u>個別の記録と実践への反映</u> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>「ふれあい記録」にケアの実践結果、気づきや工夫を表現豊かに記録できている。情報の共有については、伝達簿に完全スキャンで伝わるようにしている。</p>	<p>○ 介護計画の見直しの際、役に立っているが、介護計画見直しを通じて、立派にするようにしたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<p>○<u>事業所の多機能性を活かした支援</u> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>併設病院との連携により、身体的に変化が生じた場合など、おまわりに対応出来る。</p>	<p>病院の連携により、家族も安心し、その時々の要望が対応。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<p>○<u>地域資源との協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>地域の民生委員、産育推進会議で具体的なふれあい活動の計画と実施。防犯訓練や、地元大生との訪問や、演奏会も催している。</p>	<p>○ 今後更に地域ボランティアの受け入れをしていきたい。</p>
46	<p>○<u>事業所の地域への開放</u> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。</p>	<p>小・中・高生、大生との体験的学習や、ボランティアを積極的に受け入れ、R、ヘルパー、看護学生などの学びの場の提供をしている。</p>	
47	<p>○<u>他のサービスの活用支援</u> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>他の関係機関や関係者と話し合い、情報交換し、本人・家族の意向に添った、他のサービス利用を支援している。</p>	<p>併設のケアハウス、持春荘との紹介もしている。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	運営推進会議を行い、地域の現状を把握し、ケアマネジメント等について協働している。		
49 (19)	<p>○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	本人に合ったかかりつけ医への提供を、併設病院の医師、職員、家族との情報交換にて、支援している。		事前に家族と、適切な医師を選び、かかりつけ医を相談、支援出来る関係を築いていく。
50	<p>○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	併設病院からの精神科受診への支援をしている。	○	認知症に詳しい医師へ職員が定期的に相談できる環境にしたい
51	<p>○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	併設病院の看護師と、定期的にダブルチェックを行い、常に健康管理に留意している。		
52	<p>○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	併設病院にて、本人の様子など職員も本人と会い、随時看護師と情報交換を行い、早期退院に努める。		
53 (20)	<p>○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	家族に現状を把握してもらい、医師、職員と話し合いを重ねて方針を共有している。		定期的な家族との面談
54	<p>○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	併設病院の医師、看護師、相談員とよい方向への取り組みを常に検討している。		家族への説明を文書で行なって同意書もいたっている。今後希望があれば対応できるように準備検討
55	<p>○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	本人が過ごしやすい環境を第一に考慮し、家族とケア関係者との情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	<p>〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> <p>丁寧な言葉使いで礼儀正しく接することを心がけて 個人情報の取り扱いにも留意している</p>		
57	<p>〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> <p>日常的に自己決定できるようにゆとりと個別の対応を心がけて、本人の思いや希望に耳を傾けるように支援している</p>	〇	<p>思いや希望を表すことができず自己決定が困難な利用者に対して、目を向けたい。</p>
58	<p>〇“できる力”を大切に家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p> <p>毎日、いろいろな家事に参加できるように声を掛け一緒にしている。日用品や好みの物などは買物にはできていない</p>		<p>本人の身に合った家事への参加を促し、生きがいを持って参加する工夫につめたい。</p>
59 (22)	<p>〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> <p>本人の意見、その日の気持ちなどを察し、その日何かしたいのかを聞き取る努力をしている。何に興味を示したか見逃ささないようにする</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> <p>その人らしいお洒落ができるようにバガケしている 整髪については、施設内の散髪、移動美容院など、その人に合った場所へ行ってもらっている。</p>		
61 (23)	<p>〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> <p>皆さんの食べたい物を聞いて献立を決め、一緒に調理したり 食後の片付けと一緒にしている。</p>		<p>糖尿病、腎臓病の方について管理栄養士の指導を受けている。嚥下障害の方にはリズク、トニキザンなどの対応で個別に準備している。</p>
62	<p>〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p> <p>皆さんの好みを聞いてすすめている。</p>		
63	<p>〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p> <p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく、トイレ誘導している。1日の水分量をチェックし、好みの飲み物などとすすめる。 便秘対策をしている。</p>		<p>痔やく薬に頼らず、牛乳、ヨーグルト、バナナなどでおむつに腹部マッサージなどで対応している。 緩下剤が必要な方は看護師に相談しながら調節している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<p>○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	○	希望があれば、その都度入浴できるようにしていきたい。
65	<p>○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	○	外出の支援を増やしていきたい
67	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68 (26)	<p>○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>	<p>わたぼうし便りや呼びかけ、電話により伝えている。</p>	<p>○ 余裕をもって1ヶ月前には伝えるようにしていきたい</p>
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>正しく理解し取り組んでいる。</p>	
75 (28)	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>鍵をかけることの弊害を理解しているが状況によっては安全管理のために施錠をすることもある</p>	<p>○ 工夫して屋外に出てむきちんと確認でき、安全管理ができるようは対応していきたい</p>
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に利用者様がどこにいら、(しゃるのか、しかり)と把握し、安全確認を確実にしている。</p>	
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物や針などは職員と一緒に使用し、その後物品の数をチェックして事故がないように保管している。</p>	<p>○ 洗面所の手洗、石けん、消毒液の保管を工夫したい。</p>
78 (29)	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>知識を身につけて事故を未然に防ぐ努力をしている。万一発生した場合「ヒヤリハット」に記入し、次に同じことを起こさないよう職員全員で再認識する。</p>	
79 (30)	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>マニュアルにより応急手当初期対応の知識は持っているが、定期的な訓練は行っていない。</p>	<p>○ 定期的な訓練を行ってみたい。</p>
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>	<p>ヒヤリハット、インシデント、アクシデント報告をまとめて提出し再発防止に努めている</p>	<p>○ 事故などが発生した場合、毎日開ミーティングで読み上げ職員に周知させる</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84 (32)	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86 (33)	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>	○	<p>歯ブラシや義歯の清潔な保管方法について検討中。</p>
87 (34)	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88 (35)	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
90	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>変り敷物の茶を植る 季節に応じた色や柄の ようにする</p>	
91 (36)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居心地良い 雰囲気作りに努めている</p>	<p>毎日生活環境チェックをし 記録している。</p>
92	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人の配置 息苦しい位置は 移動させる 楽しく やくし 過ごせる場所作りをする</p>	
93 (37)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は 今の使った 家具 什物などを自由に置 そのくらい暮らしてみたいようにしている</p>	
94	<p>○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気の高 換気時の開閉を 冬場は特に 乾燥を防ぐため加湿器を付ける</p>	<p>毎日換気 室温 湿度のチェックし 環境整備している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
95	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。</p>	<p>ベットの高さは ベット 柵の設置を調節 安全に もつて安全に生活できるようにする</p>	
96	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの 得意な作業、又 苦手な作業を 分別して暮らしているようにしている</p>	
97	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い日には ベランダ (夏場) や 庭下 町を歩いたり、散歩が出来るようにしている</p>	<p>○ もっと自由に出入りできるように 足元の安全を整備していく</p>

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ⑤利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	④ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ⑤利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームわたぼうし
所在地	山口県下関市横野町16番35号
電話番号	083-258-3123
開設年月日	平成11年2月1日

【実施ユニットの概要】 (12月20日現在)

ユニットの名称	グループホームわたぼうし ②			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 2名	女性 7名	
	要介護1	2	要介護4	2
	要介護2	2	要介護5	
	要介護3	3	要支援2	
年齢構成	平均 64.4歳	最低 61歳	最高 95歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員にて、考え意見を出しあいました。
評価確定日	平成 年 月 日

【サービスの特徴】

- ・ その人らしく 穏やかに、のんびりと、落ち着いて過ごしていただいています。
- ・ ひとりひとりの状況の変化に対しても、家族、医師、看護師(健康管理)と話し合い、一日でも長くグループホームで暮らしていけるように、医療連携での介護に努めています。
- ・ 「できること」の個別対応と、又、グループホーム全体での行事などは、スタッフと入居者が一緒に、作りあげて、みんなで感動を味わえるように心がけています。
- ・ 全職員は、いつも、心をこめて、入居者に寄り添い気持ちを共有できるような介護に心がけております。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
	地域で生き生きと暮らすことを目標にしている。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
	日常的に確認し共有し合って実現に向けて努力している		
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
	ホーム内に掲示し毎日目にすることにより軌道修正し見直している。		
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
	常により良いサービスを目指して問いかげをし互いに考え意見交換し合っている		
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	わかろうしの生活ぶりを知らせ理解を深めてもらう。ホーム便り等を利用していくとよいのか？
	家族への呼びかけはできているが今後地域になじむ働きかけが必要かと思う。		
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	○	顔みせりになじみの関係となれり場づくりの設定をしていく
	自治会長さんや民生委員さんを通じて交流の場が生まれつつある。		
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	○	法人施設内での交流にとどまっている。今後もっと地域へ出向く。
	地域のまつりに出向いたり(おみこし)法人の行事に招いたりしている。		
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つことについて考える場を持てたい
	地域交流ホームを開放し自由に使用してもらっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<p>○<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の高齢化により、運営者の思いと、現場職員との距離感を感じている。 外部評価により、理解してもらえ、共感してもらっている。</p>	<p>○ 職員全員で自己評価して、会議で問題点について話し合っている。</p>
10 (5)	<p>○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2か月に一回会議を開き、現在の状況と、地域の今をきくことができている。 地域の方と、合同で行事を行っている。</p>	<p>芋ほり(地域の畑に行き、子供たち)文化祭(売店と合唱にて、ふれあいの) 石井先生と小学生とのふれあい。</p>
11 (6)	<p>○<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の監査があり、見直し点やサービスに関しての情報をいただいた。</p>	
12	<p>○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度は、個々に学習している。 全員での学習はできていない。</p>	<p>○ 専門的にくわい方を勉強会に招き、学習していきたい。 (毎月、勉強会を実施している)</p>
13	<p>○<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>行動障害への対応に苦慮することもあるが、その都度、みんなと話し合っ、気持ちに余裕を持てるよう努力した。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
14	<p>○<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>書類上の契約は、出来ている。 説明不足や受け取り方の相違がある時があった。</p>	<p>○ グループホーム内の決り事や今後の高齢化による、身体的にどこまで暮らすことができるかなど。</p>
15	<p>○<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者からの意見は、真摯に受けとめ色々な角度より検討し、家族と相談の上、解決しています。</p>	<p>会議にて、全員で話し合いたい。即答しないといけない場合も多く、報告の形になることも多いのが、 <small>実際</small></p>
16 (7)	<p>○<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>伝えた事は、面会時に伝えている。急な事は、電話にて連絡。金銭管理の報告もしている。 日常の事は、わたぼうし便りにて知っている。</p>	<p>○ 面会時に、お互いの報告がしやすいように、家族の方々とコミュニケーションをとりたい。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じて いる(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>	開示し要求に応じている。		
18 (8)	<p>〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに 外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映さ せているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び 職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の 手続きを明確に定めている。</p>	相談窓口を設け 担当者、外部機関を 明示している。		
19	<p>〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	日々の申し送りやスタッフのミーティング また 個人面談で 提案を聞き、その意見の反映に努めている		
20 (9)	<p>〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が できるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保 するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	必要な時に 必要な職員の確保ができる様 調整に努めている		
21 (10)	<p>〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による 支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限 に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメ ージを防ぐ配慮をしている。</p>	異動は 最小限にとどめられている。利用者の ダメージを防ぐことは常に第一に考えている		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	<p>〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するた めの計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確 保や、働きながらトレーニングしていくことを進めて いる。</p>	法人内 及び ホム内での勉強会、研修 各委員会での学習は 定期的に行っている。	〇	法人外の研修に とんどん参加 してきたい。
23	<p>〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配 置することにより、多様な利用者の暮らしに対応して いる。</p>	対応できている		
24 (12)	<p>〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流す る機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪 問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく 取り組みをしている。</p>	個人的な交流はできている。	〇	相互の訪問や 法人内他の グループホーム(701号)との勉強会計画

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○<u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常的に職員ひとりひとりの気持ちを聴く機会をもつたとして話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>	
26	<p>○<u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>日頃から職員と話し、勉強会を行ったりしている。</p>	
27	<p>○<u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>	<p>基準に添って定期的に評価している 運営者と現場は常に情報を共有している。</p>	<p>基準、手順委員会に所属し実践の勉強会を実施している</p>
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
28	<p>○<u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>時間をかけてよく話し、傾聴している。</p>	
29	<p>○<u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>何卒でも話し、一緒に悩みを解決したりして和やかなムードの中で傾聴している。</p>	
30	<p>○<u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>体験入居を可能としている。</p>	
31 (13)	<p>○<u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>日中遊びに来てもらったり、1泊～数日の体験をしてもらって、入居後の生活にスムーズに入れるよう工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
32 (14)	<p>○<u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>ふれあいを大切にし信頼関係を築いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		<p>家族会を開催し、密に関係を築いてもらうようにしていきたい。</p>
34	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		
36	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		<p>レベルの低い方にかたよった支援にたよるようにはかたよらないようにしている。</p>
37	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

38 (15)	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		<p>1-ターハ その日担当する方を決め個別ケアの徹底に努めている</p>
39	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		<p>3-11-1を一緒に見てもらう 話をするといろいろ思い出話が出る</p>
40	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<p>○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>日々の様子を職員間で話し合いケアについて話しあっている。主治医に変化が生じた時にはっと家族に報告し、考えを伺っている。</p>	<p>○ ケア方式をとりかえてアセスメントを再度ケアしていきたい。計画作成担当者、家族、担当者もうまくない情報をとり入れ、意見やアイデアをケア計画に</p>
42 (17)	<p>○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>本人・家族の意向を踏まえてアセスメントケアの見直しと業務に反映している。</p>	<p>○ 医療的に対応が必要な方は担当者会議を開きDr. Npなどの意見を伝え、その上でご家族の意見や希望を伺い、ケア計画に生かしていくようにする。</p>
43	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>「みんなの記録」にケアの実践結果、気づきや工夫と表現豊かに記録できている。情報の共有については、伝達書に完全スワフに伝わるようにしている。</p>	<p>○ 介護計画の見直しの際、役に立たないか、介護計画見直しと適宜、対応を立案するようになりたい</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<p>○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>併設病院との連携により、身体的に変化が生じた場合など、おみかみ、対応出来る。</p>	<p>病院の連携により、家族も安心し、その時々の要望が対応</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<p>○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>地域の民生委員、通達推進会議で具体的な活動の計画と記録。防犯訓練や、地元大生生の訪問や、演奏会も催している</p>	<p>○ 今後更に地域ボランティアの受け入れをしていきたい</p>
46	<p>○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。</p>	<p>小、中、高生、大学生の体験的学習や、ボランティアを積極的に受け入れ、又、ヘルパー、看護学生などの学習の場の提供をしている</p>	
47	<p>○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>他の関係機関や関係者と話し合い、情報交換し、本人・家族の意向に添った、他のサービス利用を支援している。</p>	<p>併設のケアハウス、持参が中心で、紹介もしている。</p>

とりか
たい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		<p>事前に家族と、適切な医療を受けられる専門医を相談、支援出来る関係を築いていく。</p>
50	<p>○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	○	<p>認知症に詳しい医師へ職員が定期的に相談できる環境にしたい</p>
51	<p>○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		<p>定期的な家族との面談</p>
54	<p>○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		<p>家族への説明を文書で行なって同意書もいたっている。今後希望があれば対応できるように準備検討</p>
55	<p>○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	<p>〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>		
57	<p>丁寧な言葉使いで礼儀正しく接することを心がけ、個人情報の取り扱いにも留意している</p>		
58	<p>〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	〇	<p>〇 思いや希望を表すことができない自己決定が困難な利用者に対して、目を向けたい。</p>
59 (22)	<p>〇“できる力”を大切にしながら支援している。 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>		<p>〇 本人の身に応じた家事への参加を促し、生きかえりを持って参加する工夫につとめたい。</p>
59 (22)	<p>〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		
61 (23)	<p>〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		<p>糖尿病・腎臓病の方について管理栄養士の指導を受けている。嚥下障害の方にはリキ食・トビ・キザ食の活用を個別に準備している。</p>
62	<p>〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>		
63	<p>〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		<p>排便薬に頼らず、早起ヨーグルト、バナナなどを用いて便秘を解消し、おむつを減らしている。便秘がひどい場合は看護師に相談しながら調整している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<p>○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	○	<p>希望があればその都度入浴できるようにしていきたい。</p>
65	<p>○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	○	<p>外出の支援を増やしていきたい</p>
67	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68 (26)	<p>○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	わたぼうし便りや呼びかけ、電話により伝えている。	○	余裕をもって1ヶ月前には伝えるようにしたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	正しく理解し取り組んでいる。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害を理解しているが状況によっては安全管理のために施錠をすることもある	○	工夫して屋外に出てむきちゃんと確認でき、安全管理ができるようは対応をしていきたい
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者様をどこにいら(やるのか)と把握し、安全確認を確実にしている。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や針などは職員と一緒に使用し、その後物品の数をチェックして事故がないように保管している。	○	洗面所の手洗、石けん、消毒液の保管を工夫したい。
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	知識を身につけて事故を未然に防ぐ努力をしている。万一発生した場合「ヒヤリハット」に記入し、次に同じことを起こさないよう職員全員で再認識する。		
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルにより応急手当初期対応の知識は持っているが、定期的な訓練は行っていない。	○	定期的な訓練を行ってみたい。
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や「ヒヤリハット報告書」等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハット、インシデント、アクシデント報告をまとめて提出し再発防止に努めている	○	事故などが発生した場合、数日間ミーティングで話し合い、職員に周知させる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人内の合同避難訓練に入居者と共に参加している		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	しっかりと説明し対応策についても話し合い理解してもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	細心の注意を払い小さな変化を見逃すまいように努めている。担当看護師による日常的体調管理をしている		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとりの薬について理解し症状の変化に気を付け少しでも気になるときは医師や薬剤師に報告している		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェックし水分補給や乳製品やバナナを摂る これし看護師指示により必要時は緩下剤を使用。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、起床後口腔ケアをし必要に応じてポリテクトを使用し消毒している。	〇	歯ブラシや義歯の清潔な保管方法について検討中。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ひとりひとりの状態に応じ量を加減している。 水分補給量のチェックをし足りた時は味を変えてあげる。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	スタッフが院内の感染予防チームの一員として 学び予防対策をマニュアル通り実行するように 全職員に伝え実践している		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理をし食材については検体を2週間 保管している。全職員が月1回保菌検査を行っており。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
90	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>冬は熱々の茶を植える季節感を感じたりできるように工夫</p>	
91 (36)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居心地良い雰囲気作りに努めている</p>	<p>毎日生活環境チェックをし 記録している。</p>
92	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人ひとりの置きたい位置に家具を置く 楽しくやり取りできる場所作りを工夫</p>	
93 (37)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は自分使った家具・小物などを自由に置く そのくらい暮らしたいように工夫している</p>	
94	<p>○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気の為窓を開閉できるように工夫 乾燥防止のため加湿器を付ける</p>	<p>毎日換気室温湿度のチェックし 環境整備している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
95	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるよう工夫している。</p>	<p>ベットの高さをベッド柵の設置を調節 お好みの高さで生活できるように工夫</p>	
96	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの得意な作業、又好きなことを 自立して暮らしているように工夫</p>	
97	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い日にはペランダ(居間)や 庭下で散歩や散歩が出来るように工夫</p>	<p>○もともと自由に出入りできるように 足元の安全を整備していく。</p>

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目		
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ⑥利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ④全くない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="radio"/> ⑥ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ⑥利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない